

平成25年度3年生皮膚科伊藤担当分試験問題

各文章を読み()内にその疾患名か、設問の答えを書きなさい。またその疾患をカラー写真から写真(ア～セ)と組織標本(1～12)を選んで[]に記入しなさい。(写真と組織は同一の患者さんのものではありません)…まず写真プリントに診断名を書いておくと回答が早い。

1.転移しやすく、悪性度の高い腫瘍で、皮膚以外にも生じることがあるが日本人では()に生じる割合が多い。

母斑との鑑別診断ではABCDEの頭文字で皮疹を表現することもあるが、Bは()である。

この腫瘍の診断のための検査では、()は、禁忌とすべきである。所属リンパ節の郭清を行うか否かについては色素やRIを用いる()を行う場合がある。

この腫瘍は()で、その臨床写真は[]で、組織は[]である。

また、この疾患の手掌・足底のダーモスコープ所見の写真は[]である。

2.皮膚良性腫瘍の中では頻度が高く、ときには「脂肪のかたまり」と間違えて説明されることもある腫瘍である。

嚢腫であり、切開して内容除去しても多くは再発し拡大するため()する必要がある。

この腫瘍は()で、その臨床写真は[]で、組織は[]である。

3.皮膚癌手術の中では最も多い。多くは顔面に生じる。一種の過誤腫で、転移は極めて稀である。局所侵襲性は強く、()まで浸潤する例もある。

この腫瘍は()で、その臨床写真は[]で、組織は[]である。

また、最近では、ダーモスコープでの診断が有用とされており、その写真は[]である。

4.湿疹様紅斑や白斑として始まり、後に湿潤・びらん性局面を呈する。進行すると局所内に()がみられ、所属リンパ節転移が生じる。初期では()や()と誤診されることがある。

この腫瘍は()で、その臨床写真は[]で、組織は[]である。

5.短期間にこの皮膚腫瘍の多発と皮膚うず痒症を伴うと()と呼ばれ、内臓悪性腫瘍の合併率が高い。

この腫瘍は()で、その臨床写真は[]で、組織は[]である。

6.動脈性潰瘍の多くは足部に生じるが、これが()によって生じる場合と、()によって生じる場合の一番最初に行うべき鑑別方法は、()である。この臨床写真は[]である。

虚血性足病変の進行分類で、足に潰瘍・壊疽を伴う場合は、()分類の()度である。

7.静脈性潰瘍の原因は1次性と2次性の()が主なものであるが、1次性では()や()などの手術治療がある。また、1次性伏在型でない小さいものには()を行う。

この疾患の臨床写真は[]である。また、2次性の主な原因には()がある。

1次性・2次性ともに共通する重要な治療法として()がある。

8.糖尿病性足潰瘍には、()によって生じる水疱や鶏眼・胼胝が原因になる場合と、合併する()によって生じる場合がある。前者の臨床写真は[]である。

前者は、()によって治療するが、後者の治療は()が必要になることもある。

3年生()番 氏名()